

令和 7 年度第 1 回高根沢町若者ミーティング 記録

1. 開催日時 : 令和 7 年 8 月 20 日 (水) 17 時 00 分～21 時 10 分
2. 開催場所 : 高根沢町役場第 1・2 会議室
3. 会議の趣旨 : 町長と各委員との意見交換
4. 委員構成 : 男性 3 名、女性 5 名
(10 代 : 1 名 20～24 歳 : 2 名 25 歳以上 : 5 名)
大学生の方、仕事の都合で他県から町に来られた方、U ターンの方、他県在住で 30 代での U ターンを希望している方など

5. 事務局

高根沢町企画課	課長	檜 山 史 進
	課長補佐	直 井 義 之
	係長	菅 谷 昌 孝
	主任主事	田 代 真 也

6. 意見交換内容

Aさん
①地域対抗スポーツ大会の企画 ・チームの高齢化、参加人口の減少により、チーム数自体が少なくなっているため、活性化できるように町で声をかけてほしい。 ②複合施設・文化活動 ・複合施設はこれまでの町民ホールと違う形になってしまうため、これまで町民ホールで実施していた文化活動に支障が出る可能性がある。 ・コンサート等も開催できるような施設になってほしいという声があった。 ③元気あっぷむら ・大広間が子育て世帯が遊べるスペース、大人が休めるスペースで分かれていると良い。 ・有料でも良いので、みんなが遊びに行きたいと思える施設になってくれたら良い。 ・外の遊具が、小さい子どもだと落っこちてしまうようなものになっているので、外についても小さい子どもが遊べる遊具があると良い。
町長コメント
①について ・かつて自治会対抗でやっていたが、高齢化等により参加人数が減少してしまった。アンケート調査結果でも「負担が大きい」等の意見が多かった。 ・自治会対抗ではない形のスポーツ対抗戦やスポーツの普及ができるとよい。組織作り等、どのようにやっていくかは今後の課題である。 ②について ・複合施設は椅子が可動式になっており、アリーナ、ホールとして使用できる。 ・文化活動や講演で使うのはほとんど土日であり、平日も使えるように可動式にした。 ・音響へのご意見は既に他からもいただいております、先進自治体の例も参考にしながら可能な範囲で音響にも配慮したい。 ③について ・2階の大広間は、現時点における対応として、小さいお子さんが遊べるスペースを設けている。
他委員からの意見及びコメント
なし

Bさん
①まちづくりの拠点となるハブの形成 ・まちづくりの拠点となるハブを設けた上で、それが地域全体に波及していくという事例が全国的に見られる。そういった場所を町でも形成してはどうか。 ②ブランド力の向上 ・ふるさと納税のラインナップについても、見せ方やわくわく感というところで他自治体に見劣りしてしまう。地域資源に対して、ブランド力を持たせる取組を町としてできないか。 ③たかねピアの再興 ・町を出た人にとっても共通の話題となり、地元愛や地元意識の醸成に寄与するものと思われる。 ④教育機関との連携 ・連携により、定期的、継続的に町に若い人とのかかわりが生まれる。
町長コメント
①について ・宝積寺駅東のちょっ蔵広場内に情報館、商工会館があるが、いずれも一般町民の方が気軽に集まって話せるようなスペースはない。人の流れが生み出せるよう工夫していきたい。 ②について ・改めて工夫していく必要がある。先進地視察にも職員を派遣したところであり、引き続き研究していく。 ③について ・民主導も視野に、もう一度検討していきたいと考えている。若い人たちの中にも復活を望む声や、自ら汗をかく意向を示してくれている人があり、そういった方々が集まっていただけることを、とても心強く感じている。 ④について ・現在でも宇都宮大学との連携を行っており、さらに連携を深めていきたい。
他委員からの意見及びコメント
・町では宇都宮大学と連携して地域プロジェクト演習を実施していたと思うが、町民からの認知度が足りていない印象を受けた。 ・プロジェクト演習の中で成果報告会があるが、そういったものの周知や、成果物のさらなる活用をしてもよいのではないか。 ・若い方への情報発信としてインスタグラム、TikTok を活用してほしい。 ⇒プロジェクト演習の SNS への掲載については検討していく。

Cさん
①娯楽施設・複合施設の誘致 ・公園や屋内の遊び場、産婦人科などの医療機関、カラオケ等の娯楽施設、家族で行けるチェーン店が少ないため、娯楽施設や複合施設を誘致し、高根沢町の認知度を向上させてはどうか。 ②町独自のポイント制度 ・姫路市が実施しているようなポイント制度を町で実施してはどうか。 ③LRTの延伸 ・LRTを町内まで延伸して宇都宮まで気軽に行けるようにしてほしい。 ④宝積寺駅前の放置自転車の利活用 ・放置自転車を廃棄せず、レンタサイクルとして再利用できないか。 ⑤小学校の統廃合に伴う学校施設・跡地の利活用
町長コメント
①について ・産婦人科は町として1億円の補助制度を用意しているが、社会情勢的に難しい状況にある。 ・娯楽施設、複合施設については、町は市街化区域、調整区域の線引きがあり広い土地が確保できない。また、民間企業は利益がでないと進出していただけない。 ②について ・ポイント制度については、まずは研究したい。 ・電子決済の導入におけるハードルも含めて、研究していきたい ③について ・LRTについては1km整備するのに何十億とかかり、実現は難しい。 ⑤について ・小学校が統合した場合の跡地利用、及び役場の跡地利用については、皆さんの意見を聞きながらしっかりと考えていかなければならない。
他委員からの意見及びコメント
・高崎市に高チャリというシステムがあり、廃棄された自転車を貸出している。

Dさん
①公的なスペースを過ごしやすい場所にする ・地域住民と交流して気軽に集まれる場所が必要と考えている。 ・光陽台地区には、宝積寺タウンセンターやカレント高根沢があるが、イベントがあった際に行く場所で、日常的に行って話をする場所という認識があまりない。 ・公民館や図書館（例えば図書館中央館の入り口付近のスペース）について、地域住民が日常的に行きたいと思える場所にしてはどうか。 ・具体的には、コミュニティスペースとしての宣伝や長時間滞在の許可と、訪れる目的をつくるために、キッチンカーに出店してもらう。 ②人材の発掘 ・地域おこし協力隊は町に住んでいない人が移住して地域を盛り上げるという趣旨の制度。もともと町に住んでいてまちづくりにかかわりたいと思っている人も巻き込んでどうか。 ・具体的には、会員としての登録、NPO等の団体とまちづくりしたい人をつなげる、新たな団体の立ち上げの支援。
町長コメント
①について ・前向きに検討したいと考えている。 ・場所としてはどういったところを考えているか。 ⇒自宅周辺では空き家の増加が問題になっており、空き家をリノベーションすることで集まりやすくなると考えている。
他委員からの意見及びコメント
・民間がやっているコミュニティスペースとして、スーパーのイートインスペースがある。 ・生活圏にコミュニティスペースあるということがポイントである。 ⇒・共助の心がないと地域が成り立たないというのは大きな課題と認識している。 ・町内では、独居高齢者等の生活支援が必要と考える人たちが、介護サービスで賄えない部分を有料でもやっていこうと団体が自主的に立ち上がった。 ・防災についても、高齢者の要支援者名簿を自治会で共有して何かあったときに備えようという動きが自然発生的に出てきている。 ・社会福祉協議会の中に、「地域支えあいセンターまるっと」がある。 ・その中で、志民活動に関する相談に乗ってくれるところもあるが、現在の活動は高齢者の生活支援や見守りがメインとなっている。SNSでも活動のようすを掲載しているのでぜひ見てほしい。

Eさん
①放課後学校 ・地域の大人たちが先生となり子どもたちの放課後を一緒に作るというもの。 ・大人から子どもに教えることで、大人・高齢者の生きがいもでき、核家族の子どもにとっても、高齢者とのかかわりが持てる。また、学校では学べない生きる力を育てられる。 ・高根沢町ならではの仕事を経験することで、町に愛着を持つようになり、町から出ていったとしてもまた戻ってきたいと思ってもらえるようになる。
町長コメント
・地域の子どもはその地域の大人や高齢者に見てもらおうという、大人の持っている知識や経験を子どもにも教えてあげる、見守りにもなる。 ・仕組みづくりをやっていかなければならない。研究課題として受け止める。
他委員からの意見及びコメント
・高齢者の方が赤ちゃんに触れ合う機会がないという声をよく耳にする。 ⇒こういった場所でそういったふれあいができるか、関係機関と話しながら仕組みを考えていかなければならない。 ・サロンに娘を連れて行ったらすごく喜ばれた。また、高齢者に悩みを聞いてもらうことで、育児で疲れていた気が和らいだことがあった。 ・お互いウィンウィンの関係になれるのではないかな。 ⇒サロンは各自治会単位で、月1、2回やっている。そういったところで、子どもとのふれあいの場が持てる。 ・子どものいる共働きの家庭では、夏休みが大変。 ・夏休みの日中にプチ林間学校のような形で体験会を開催すれば、子どもに選択肢を与えることができ、楽しく夏休みが過ごせるのではないかな。 ⇒夏休みや放課後において、子どもを預けたいという親と、大人や高齢者をどうマッチングしていくか、いろいろな団体に声をかけて組み立てができるか考えなければならぬ。

Fさん
①インフルエンサーを活用した SNS によるプロモーション ・若者による発信ではなく、インフルエンサーや YouTuber を活用すべきと考えている。 ②観光スポットを増やす ・元気あっぷむらの活用方法として、自然を活用すべきと考えており、元気あっぷむらに小中学生が遊べるアスレチックをつくってはどうか。 ・歴史民俗資料館を古民家カフェにするべきと考える。 ・駅周辺の商店街をもっと活性化すべき。 ・同時に、昔ながらのお店の PR も行う（そこのお店がやめてしまったらその味が食べられなくなってしまうという希少性を持たせる）。
町長コメント
①について ・SNS による発信は若い人たちがすぐできることだと思う。ぜひ皆さんにもご協力をお願いしたい。 ②について ・古民家カフェにするという発想はなかったので、意見として受け止める。
他委員からの意見及びコメント
・インフルエンサー、インスタグラマーは我々では分からない良さを発信してくれる。発想力のあるプロにやっていただくのが良いのではないかな。 ⇒元気あっぷむらのテナント業者が、民間のネットワークでそのような人脈を持っているかもしれないので、連携しながら検討したい。 ・高根沢ちゃんぼん巡りや、高校生と連携したデザートの商品開発を行うことで、地元グルメの活性化につながるのではないかな。 ・商品開発の際には町内産の農産物を使ってほしい。 ・高校生に商品開発をやってもらうことで、それが郷土愛や誇りにもつながる。 ⇒色々有用なアイデアをいただいたので、受け止めて参考にしていきたい。

Gさん
①若者世帯を増やすために子育て世帯の支援強化 ・出産してからのサポートを手厚くしてほしい。 ・消耗品（おむつ）の配布により、金銭的な負担が軽減され、おむつの準備や管理をする親や保育士の手間も減らすことができる。 ②道路の整備 ・登下校時間中、小学生が飛び出してくることがあり、歩道の整備を行ってほしい。 ③情報発信の強化 ・お金のかからない方法として、インスタグラムで投稿等をしていただいた方に高根沢町のご当地グルメを抽選で贈呈するキャンペーンを行うことで、高根沢町をより多くの人に知ってもらえる。 ・あわせて、スーパーと連携した高齢者への情報発信など、アナログでの発信の2つを併用して行っていくべき。
町長コメント
①について ・町では子育てに関する相談体制を手厚くしている。 ・おむつの支給については、財源、予算の関係もある。 ・幼稚園保育園の副食費、小中学生の給食費については、無償化を実施する予定であり、必要なサービスを見極めながらバランスをとって提供していきたい。 ②について ・隣の市町と比べても悪い状況であり、計画的に道路整備・維持管理を行っていきたいと考えている。 ・歩道については白線を引きながら危険のないように対応していきたい。 ③について ・今後、皆さんと一緒に考えていきたい。
他委員からの意見及びコメント
なし

Hさん
①SNS の活用 ・政策やイベントについては高根沢町は整っているが、それらがあまり知られていない。 ・インスタグラム、TikTok を活用し、ハッシュタグキャンペーンを行うことで、自分たちでも町を盛り上げることができる。 ②若い世代をターゲットとしたイベント ・高根沢町の魅力を若い世代に知ってもらうことが重要と考えている。 ・SNS の発信だけでは町への人の流れを作るのは難しい。 ・現在実施されているイベントはファミリー向けや子ども向けのものが多く、若者が自分事として参加できるイベントが少ないと感じる。
町長コメント
①について ・情報発信力については、皆さんの力、職員の力を借りながら高めていきたい。 ②について ・若者をターゲットとしたイベントとして、ちょっ蔵ホールでバンドのライブが開催されているほか、のぶおぼんどの中島伸雄さんによる県内高校生を対象とした軽音楽コンテストも行われている。 ・のぶおぼんどの新曲「いちごのうた」も、小学校を中心に広がっており、さらにコンテンツをひろげていきたい。
他委員からの意見及びコメント
なし

総括（事務局）

- ・今日皆さんの意見を聞いていて、財政的な話は別問題として、考え方として、やるからにはプロの力を借りる等、資源を投下してプロモーションに打って出ないと訴求しないということ等について、身にしみて感じたところ。
- ・今日お話しいただいた意見は、未来創造会議にフィードバックさせていただく
- ・また、企画課以外の課に関する内容も、各課に共有させていただく。

以上